

**発言順序1「3番」加藤代史子議員**

1 新型コロナウイルス感染症ワクチン接種について

緊急事態宣言のない、大型連休を終え、本市においても陽性者が増加している。国は重症化予防を目的に4回目のワクチン接種についての方針を打ち出した。そこで、以下4点を問う。

- (1) ワクチンの接種状況と今後の課題についてを問う。
- (2) ワクチン接種による重篤な副反応の報告についてを問う。
- (3) ワクチンの有効期限について本市の現状と廃棄の考えはどうか。
- (4) 4回目のワクチン接種のスケジュールと人数をどのように想定しているか。

2 学校給食費について

新型コロナウイルス感染症の長期化、ウクライナ危機等による物価高騰等様々な要因が重なり、食材の値上げが相次いでいる。限られた費用で調理する学校給食では、食材の変更など献立の工夫等で努力していると思うが、現状と今後の対策について問う。

- (1) 給食費の現状と値上げについての考えはどうか。

3 慢性腎臓病（CKD）の予防について

腎臓の障害や機能低下が3か月以上続く慢性腎臓病（CKD）。日本では成人の8人に1人が該当すると言われ、進行すると透析治療が必要となる。健康診断が重要で、検査後の予防や治療に取り組む必要がある。そこで本市の現状と対応について、以下2点を問う。

- (1) 本市の慢性腎臓病（CKD）の現状と対応についてを問う。
- (2) 透析患者数の推移と医療費の推移についてを問う。

#### 4 公共施設の男性トイレの個室にサニタリーボックスを設置することについて

前立腺がん及び膀胱がんの患者が増加し、尿漏れパッドを使用し外出する方が増えている。2018年に前立腺がんと診断された男性は約9万2,000人、膀胱がんと診断された男性は約1万7,000人。手術後、尿漏れパッドを使用して、気軽に外出して捨てる場所がないのが現状である。最近では、公共施設や商業施設にサニタリーボックス（汚物入れ）を設置する自治体が増えている。そこで本市の考えを問う。

- (1) 公共施設の男性トイレの個室にサニタリーボックスを設置する考えはあるか。

## 発言順序2「10番」中村崇春議員

### 1 子ども食堂について

平成24年から始まった「子ども食堂」は、子供の貧困対策を目的としていた。現在では子育て支援や教育支援、地域づくりなどの目的も持つようになった。

全国でも子ども食堂は増加傾向にあり、本市においても徐々に増えてきている。今後は、新たなコミュニティとしても期待されている。

しかしながら、運営は厳しく、国や自治体の支援はこれからも必要である。子供が健やかに育ち、輝けるまちとなるよう、子ども食堂へさらなる支援が必要と考える。

そこで、以下3点を問う。

- (1) 本市の子ども食堂の状況はどうか。また、市は子ども食堂をどのように位置付けているか。
- (2) 現在の子ども食堂に対する市の支援内容とその実績を問う。
- (3) 子ども食堂に対する今後の市の方針はどうか。また、支援策の拡充は考えているか。

### 2 愛知用水について

本年5月17日、豊田市の明治用水頭首工で大規模な漏水事故が発生し、農業・工業用水に大きな影響が出た。

本市を含む知多半島には昭和36年に完成した愛知用水により水が供給されている。

明治用水の事故により、愛知用水に対し心配する声もあった。安心・安全のために愛知用水の現状などを確認することが必要と考える。

そこで、以下2点を問う。

- (1) 愛知用水の点検状況を問う。
- (2) 事故があったときの連絡体制はどうなっているか。

### 発言順序3「9番」大川秀徳議員

#### 1 常滑市公式SNSについて

本市では、広報とこなめ・公共施設の掲示物等のアナログ媒体や、パソコン・スマートフォン・タブレット端末の普及によるホームページ・SNS等（Facebook・Twitter・LINE）のデジタル媒体を使い分けながら、本市の取組や行政サービス等の情報を多くの市民に届けている。

そこで、以下2点を問う。

- (1) 暮らしの質を高める価値あるデジタル化に向けて、さらにLINEを活用すべきと考えるがどうか。
- (2) LINEを活用し「プッシュ型行政サービス」を行っている自治体があるが、本市でも導入してはどうか。

#### 2 運動部活動の地域移行について

スポーツ庁は「運動部活動の地域移行に関する検討会議」において、公立中学校等の運動部活動を休日から段階的に地域移行することを目指す提言案を公表した。

そこで、以下3点を問う。

- (1) 拠点校（地域）における実践について、研究成果を本市はどう捉えているか。
- (2) 休日の運動部活動について、国は令和5年度以降、段階的に地域移行を進めていく考えだが、本市の方針を問う。
- (3) 部活動の地域移行の受け皿となるスポーツ団体や指導者と学校との連携・協議を推進すべきと考えるが、見解を問う。

#### 発言順序4「15番」加藤久豊議員

##### 1 発達障害がある子供、もしくは疑いのある子供への支援策について

発達障害のある、もしくは疑いのある幼児、児童生徒、そして保護者への対応について、以下8点を問う。

- (1) 発達障害とは何か。
- (2) この障害はいつどこでだれがどのように気づき、判断して保護者に伝えるのか。
- (3) 市内にはどれほどの発達障害もしくは疑いのある子供がいるか。
- (4) 発達障害者支援法の一部改正では市町村の役割も明記されているが、県公表の相談窓口一覧には常滑市の相談窓口がないのはなぜか。
- (5) 発達障害者支援法の一部改正にある市町村の責務役割について達成率は何パーセントか。また、告知方法はどのようになっているか。
- (6) 他市では保育士や幼稚園教諭など県主催の研修会に参加してスキルアップに努めているが、常滑市では過去、何名ほどが参加し、どのような成果があったか。今後の取組はどうか。また、先進地では教職員等のスキルアップにも力をいれている。常滑市では教職員の研修はどの様に行っているか。
- (7) 常滑市教育委員会では、発達障害のある子供を持つ保護者あるいは疑いのある子供を持つ保護者に対してミーティングの場を設けていたが、打ち切った。とても有意義で同じ悩みを持つ親同士、親身になって話し合うことができ、一部では悩みの解消や安堵につながったと聞く。常滑らしい素晴らしい事業をなくした理由は何か。
- (8) 常滑市教育大綱には、「子供たちのために、今必要な教育施策は何か」を親身に考え、ともに子供たちを支え、育てていくことができる体制として、一人一人のニーズに応じた教育支援体制の整備と指導の充実を図るとともに、一人一人の個性の違いなどに応じたきめ細やかな教育の推進に努めるとあるが、今回の打ち切りは、この考えに逆行しているのではないか。多くの保護者は自分の子供に発達障害がある、もしくは疑いがあることを知られたくないとの心理があるため、福祉部と教育委

員会が連携し、しっかり寄り添い、親身になって対応することが大切だ  
と思う。発達に障害のある子供たち、そして保護者を取り残さないでほ  
しいと切に願うがどうか。

## 発言順序5「7番」伊藤 直 議員

### 1 ヘルプマーク・ヘルプカードについて

ヘルプマークとは、外見からは分からなくても援助や配慮を必要としている方々が、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくなるよう、作成したマークである。

また、ヘルプカードも配布の目的はヘルプマークと同様であり連絡先・病名・血液型・かかりつけの病院などを記載できるようになっている。

現時点では、このヘルプマーク・ヘルプカードはまだまだ認知度が低く、それによる問題点もあるが、公共交通機関の優先席にヘルプマークのシールが貼られていたり、テレビでの啓発などでヘルプマークについて目にしたり耳にすることも増えてきた。

そこで、以下3点を問う。

- (1) 今までに本市においてどれくらいの数のヘルプマークを発行しているか。
- (2) ヘルプマークについて市民にはどのような形で周知しているか。
- (3) ヘルプマークとヘルプカードで配布条件に大きく違いがあるのはなぜか。

### 2 アピアランスケア用品購入費補助について

がん治療中の人が見容の変化を補う「アピアランスケア用品」を購入する際、助成する自治体が増えてきている。がん治療に伴う外見の変化は非常に気になるものだと思う。脱毛に対応するウィッグや乳房の形の変化に対応する乳房補正具などには高額になるものもある。そこで、以下2点を問う。

- (1) 他市町の動向は把握しているか。
- (2) 補助制度の問合せや相談などはあるか。

## 発言順序6「2番」西本真樹議員

### 1 非核平和都市宣言について

ロシアのウクライナ侵攻により、多くの市民が犠牲になっている。このような中、ロシアのプーチン大統領は核兵器の使用も辞さないとの声明を出している。

日本は世界で唯一の核兵器による被爆国であり、核兵器の使用を許さないという声を上げていくべきと考える。

そこで、以下を問う。

- (1) 本年5月に憲法施行75年を迎えた。憲法の理念を実行するためにも、非核平和都市宣言をすべきと考えるが見解を問う。

### 2 ごみの収集について

今年度から2市3町で構成された知多南部広域環境センターが本格スタートした。

今までのクリーンセンター常武の場所から移動したため、ごみの収集時間が今までより遅くなった地域が多くみられる。そのことにより、鳥獣（特にカラス）によるごみの散乱や悪臭なども増えたのではないか。

そこで、以下2点を問う。

- (1) ごみの収集が遅くなったことにより、鳥獣が餌を探すためにごみを散乱させている。散乱させないように防鳥ネットだけでなく、ごみ集積場の支援もすべきではないか。
- (2) ごみ処理施設までの距離が離れたことにより、収集時間が長くなっているのではないか。本市として実態と課題等をどのように認識しているのかを問う。

### 3 物価高騰に対する支援について

コロナ危機によって景気の低迷、生活の困難が長期に及んでいるところに、ガソリン、食料品、電気料金をはじめ物価の高騰が始まっている。



現在の物価高騰と国民生活の困難は、コロナ禍からの経済回復に伴う世界的な需要増による国際価格の高騰、日本銀行の「異次元の金融緩和」政策による円安誘導と輸入価格の上昇、ロシアのウクライナ侵攻と経済制裁によるエネルギーや小麦価格の上昇という複合的な要因があると考えます。国レベルでの対策が必要と考えますが、本市としてもできることがあると思います。

そこで、以下2点を問う。

- (1) 水道基本料金の免除を求めるがどうか。
- (2) 幼保こども園、小中学校の給食費の無償化を求めるがどうか。

## 発言順序7「6番」井上恭子議員

### 1 世界中から観光客を招き続ける常滑に

令和4年度から令和8年度の5か年の実施で「常滑市観光戦略プラン2022」が作成された。本計画の策定に当たって、特に「中部国際空港・りんくう地域から市街地への誘導」「ブランド力の向上」「観光消費額の増加」をキーワードとし、具体的な戦略が書かれていて今後の観光推進に期待している。

世界中から観光客を招くには、まずはこの常滑の良さを魅力的で的確な外国語で伝えることが最も大切ではないだろうか。

そこで、以下4点を問う。

- (1) 常滑市のホームページの外国人向けの翻訳はAIでの変換である。これらのチェックは誰がどのように行っているのか。
- (2) 世界から観光客を招き入れるには、まずは知ってもらうことが必要である。海外向けの動画は、民間を含め今までにどれくらい制作されてきたか。
- (3) 海外の方には大変喜ばれる古民家再生の民泊施設は、市内にどれくらいあるか。
- (4) 常滑焼の販路拡大のためには海外の方も含め、急須を使ってお茶をじっくり味わってもらうことが必要不可欠である。現在、市内には何か所くらい存在するのか。

### 2 時代に即した食育とオーガニック栽培農家育成を

年々イライラ、アトピー、アレルギー、低体温、発達障害、その他障がいの子どもが増加している。それにはいろいろな原因があるが、食に起因するところが多く、これを早急に是正するのに最も必要なことは、食育の推進ではないか。

また、農薬や化学肥料を使わないオーガニック農業の取組面積は2018年に農地全体の0.5%だったが、国もようやく重い腰を上げ、米や野菜の安全性を鑑み、2050年には農地全体の25%に増加していくことを決定し

た。子どもの健康を考え、常滑市においてもオーガニック栽培農家を増やしていくことが喫緊の課題ではないか。

そこで、以下3点を問う。

- (1) 各学校の特別支援学級が増加している。小中学校それぞれ何クラスで何人いるのか。10年前と比べ特別支援学級の児童生徒の割合はどれくらい増加しているのか。
- (2) 子どもたちへの食育はどのような内容を、どれくらいの頻度で教えているのか。
- (3) 市場で販売をしているオーガニック農家は市内で何戸いるのか。

### 3 来年のNHK大河ドラマ家康にちなみ町おこし

徳川家康が伊賀越えの時、常滑を通ったと言う文献が数多く残されているが、それがNHK大河ドラマでは通った形跡が描かれていない。常滑には家康が訪れたと言うことで柴船権現祭が行われており、大野町でも家康にまつわる文献や軸などが残されている。そこでこの機に常滑市も知名度向上と観光消費額の増加策として、「家康を助けたまち」としてPRし、観光の一環として行ったらどうか。

そこで、以下を問う。

- (1) 家康ゆかりの地では今、大変盛り上がっている。常滑には柴船権現祭、大野町には尾張大野古今散策というイベントがある。家康を助けたまちとして、市としてはどのようなアピールができるのか。また、どんなPRをしたらいいと思うのか。

## 発言順序8「13番」相羽助宣議員

### 1 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金(コロナ禍における原油価格・物価高騰対応分)について

国は、長引くコロナ禍に加えて、原油価格や物価高騰の影響により、生活者や事業者が、様々な分野で大きな負担になっているということで、新たな枠を創設した。そこで本市の取組について、以下3点を問う。

- (1) 現在の状況をどのように分析しているか。
- (2) 国の算定では、交付額はどのくらいになるのか。また、いつぐらいに交付されるのか。
- (3) 生活支援・産業支援についてどのような検討を行っているのか。

### 2 新型コロナウイルスの感染対策として推奨されてきたマスクの着用について

マスクの着用について、国は5月20日に外せる場面などを整理して見解を発表したが、本市としてどのように対処していくのか、以下2点を問う。

- (1) 屋内・屋外における就学者・未就学者・それ以外の、それぞれ外せる場面はどうか。
- (2) 市民にどのような方法で周知していくのか。

## 発言順序9「12番」伊 奈 利 信 議員

### 1 「みんなでつくる」まちづくりについて

令和4年4月に第6次常滑市総合計画が策定され、新しいまちづくりがスタートした。

令和10年度までの本市が目指すまちの姿を「とことん住みたい 世界とつながる 魅力創造都市」と定め、まちの「安全」、「安心」、「成長」の3つの視点で、市民や団体、事業者、行政などが互いに連携し、協力しあい、それぞれが持っている知恵や力を十分に生かした「みんなでつくる」まちづくりに取り組んでいくと記されている。

行政ができること、市民や団体、事業者だからこそできることがあり、各分野において互いに力を合わせ、協働して進めていくことが本計画で描く将来像の実現には重要であると考えている。

そこで、以下4点を問う。

- (1) 今後のまちづくりにおける協働の必要性についてどう考えるか。
- (2) 現在の登録されている市民団体は幾つか。また、活動への支援は行っているか。
- (3) まちづくり事業費補助制度の概要及び令和2年度、令和3年度の申請件数と補助金総額を問う。また、国際芸術祭「あいち2022」の特別枠の申請件数と補助金総額を問う。
- (4) 登録団体以外（一般市民グループ、小中学校の児童生徒、高校生、大学生）が取り組む地域貢献事業や地域活性化事業等に対する支援は考えているか。

## 発言順序 10「4番」成田勝之議員

### 1 带状疱疹ワクチンの助成について

厚生労働省ホームページ記載の国立感染症研究所による、「带状疱疹ワクチン ファクトシート 2017年2月10日」に「予防接種法に基づく感染症流行予測調査によると、成人の水痘带状疱疹ウイルスに対する抗体保有率は90%以上であり、成人のほとんどが既感染で、带状疱疹の発症リスクを有している。また、85歳の人約半数が带状疱疹を経験していると報告されており、80歳までに3人に1人が带状疱疹を経験すると推定されている。」と記載されている。

発症後には長引く痛みを悩まされる人もいます。

免疫力の低下によって発症するが、50歳以上の人にはワクチン接種が有効とされる。

ワクチン接種は50歳以上で可能となるが任意接種であり、全額自己負担となる。

接種費用の助成制度を検討すべきと考える。

そこで、以下3点を問う。

- (1) 市内における、罹患者数やワクチン接種者数などのデータはあるか。
- (2) ワクチンの有効性とデメリットは何か。
- (3) ワクチン接種費用の助成制度に対する市の考えはどうか。

## 発言順序 11「8番」盛田克己議員

### 1 コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)について

コミュニティ・スクールとは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5に基づき、校と保護者や地域の方々がともに知恵を出しあい、学校運営に意見を反映させることで「地域とともにある学校づくり」を進めるものであり、本年度から市内13の小中学校全てで取り組む。そこで、以下5点を問う。

- (1) 目指す方向に戸惑いはないか。
- (2) 令和3年度に三和小学校と南陵中学校で取り組んだ状況と問題点、課題はどうであったか
- (3) 学校運営に意見を述べる運営協議会とは別のボランティア的な奉仕もコミュニティ・スクールに含むのか
- (4) コミュニティ・スクール一校当たりの予算はどのようになっているか。
- (5) 幼保こども園に草刈り等のボランティア組織を立ち上げることはできないか。

## 発言順序 12 「1 番」 渡 邊 十三香 議員

### 1 本市の図書館の現状と今後の展開について

自由であり、あらゆる教育格差を取りのぞき、何人も利用でき、また、いつ学びを開始したり、やめたりしても妨げがない場所である「図書館」。

谷一文子氏の著書「これからの図書館」には、「図書館」は時代とともに変化し、「本の倉庫」から「知の広場」として、「地域の賑わいの創出場所」として、世代を超えて交流できる「敷居のない場所」となり、多くの方に利用されるようになったことが記されている。

また、文部科学省の「これからの図書館像」には、図書館は「中学校区などの生活圏に整備する必要がある」こと、「人口当たりだけでなく、可住地面積当たりでの図書館の整備を目指すことも必要」と書かれており、全国どこでも図書館サービスを受けることができるよう、図書館の設置の促進をうたっている。

そのため谷一文子氏の著書では、ホールや美術館、博物館、子育て支援施設、老人福祉施設、学校、病院、役所などのどのような施設とも複合する可能性があることも示している。

本市の図書館機能は、庁舎内にあるこども図書室と、公民館内に分散移転し、まさにこれからの図書館像にふさわしい複合化が実現している。

「当面はこの体制を維持しつつ、電子書籍やオンライン学習など、ICTを活用した生涯学習環境の多様化が進む中で、今後の生涯学習施設・文化施設のあり方について、中長期的に調査・検討していく必要がある」と第6次常滑市総合計画の中で示している。

個人の希望として、行く行くは文化会館のようなホールとの複合化で、「知の拠点」を作り、それぞれの分館との結びつきの強化が望ましいと考える。

本市の図書館について、以下6点を問う。

- (1) 現在の図書館利用カードの発行数及び年間の貸出し冊数はどれくらいか。また、コロナ禍ではどのような変化があるか。



- (2) 3館それぞれ一日あたりの平均来館者数はどれくらいか。また、今後、来館者増加策としての趣向を凝らしたイベントの開催予定はあるか。
- (3) 図書館サポーターからのアイデアで実現した「読書記録ノート」。読書の足跡、すなわち自身の「知の蓄積量の見える化」として多くの市民に活用してほしいと考える。利用促進に結びつくような有効活用はされているか。
- (4) 現在、本館機能の青海公民館のみ平日 10 時～19 時まで利用ができ、それ以外は 10 時～17 時 30 分で、各施設とも月曜日が休館となっている。夏休み期間や、週末の学校行事の振替休日として月曜日の利用の需要が見込まれると考えるが今後、時間延長、休館日廃止は考えているか。
- (5) 文化会館第 2 練習室を学習室として開放しているが、利用状況はどうか。
- (6) 全国でおよそ 910 か所（2022 年 2 月現在）に広がっているまちライブラリーという取組がある。コロナ禍ではさらに需要が高まっていると聞く。本市で広げていく一歩として、市役所玄関に本棚を設置し、市長、副市長、教育長、各部長おすすめの本を寄贈していただく「植本祭」を行い、誰もがいつでも好きな時に自由に読むことができる本で満たし、まちの活性化につなげてみてはどうか。